軽井沢で

芥川龍之介

黒馬に風景が映(うつ)つてゐる。

×

朝のパンを石竹(せきちく)の花と一しよに食はう。

×

この一群(ひとむれ)の天使たちは蓄音機(ちくおんき)のレコオドを翼にしてゐる。

×

町はづれに栗の木が一本。その下にインクがこぼれてゐる。

×

青い山をひつ掻(か)いて見給へ。石鹸(せつけん)が幾つもころげ出

すだらう。

×

英字新聞には黄瓜（かぼちや）を包め。

×

誰かあのホテルに蜂蜜を塗つてゐる。

×

M夫人――舌の上に蝶（てふ）が眠つてゐる。

×

Fさん――額（ひたひ）の毛が乞食（こじき）をしてゐる。

×

Oさん――あの口髭（くちひげ）は駝鳥（だてう）の羽根だらう。

×

詩人Ｓ・Ｍの言葉――芒（すすき）の穂は毛皮だね。

×

或牧師の顔――臍（へそ）！

×

レエスやナプキンの中へずり落ちる道。

×

碓氷（うすひ）山上の月、――月にもかすかに苔（こけ）が生えてゐる。

×

Ｈ老夫人の死、――霧は仏蘭西（フランス）の幽霊に似てゐる。

×

馬蠅(うまばへ)は水星にも群(むら)がつて行つた。

×

ハムモツクを額に感じるうるささ。

×

雷(かみなり)は胡椒(こせう)よりも辛(から)い。

×

「巨人(きよじん)の椅子(いす)」と云う岩のある山、——瞬(またた)かない顔が一つ見える。

×

あの家は桃色の歯齦(はぐき)をしてゐる。

×

羊の肉には羊歯（しだ）の葉を添へ給へ。

×

さやうなら。手風琴（てふうきん）の町、さようなら、僕の抒情詩（ぢよじやうし）時代。

（大正十四年稿）

底本：「芥川龍之介全集第四巻」筑摩書房
１９７１（昭和46）年６月５日初版第１刷発行
１９７１（昭和46）年10月５日初版第５刷発行
入力校正：j.utiyama
１９９９年２月15日公開
２００３年10月７日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。